

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(2日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	奈良県	代表者名	大峯 朝記		
担当者部署	食と農の振興部企画管理室	連絡先電話番号	0742-27-7400		
担当者役職	調整員	担当者氏名	山原 俊昭	連絡先E-mail	
住所	630-8501 奈良県奈良市登大路町30				

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	田中 淳一
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	<ul style="list-style-type: none">・行政でDXの推進について、日本が世界の中でデジタル化が遅れている理由など丁寧にご説明いただいた。その上でDXを進める中でD(デジタル)より前にX(改革)の実施について、ご自身の県庁での取組を交えてご講義いただいた。・また、意見交換では、一人一人丁寧に回答いただいた。大変有意義な講演でした。
アドバイザーへの要望事項	今後も機会があればアドバイスをお願いしたい。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2022年2月17日	14時00分	17時20分		200
3-2. 派遣場所	会場名	オンライン		最寄駅	-
	所在地	-		最寄駅からの交通手段	-
	派遣形態	講演(オンライン)			

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="checkbox"/> 掲載可
------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	職員	17人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	奈良県は、農業者によるデータ利活用が全国最下位にあるなど、農業・農政分野でのデジタル化やDXの機運が弱い問題がある。 この課題に対峙するには、県庁職員のデジタル化やDXに対する意識改革を徹底し、これを担う新たな人材を育成することが必要である。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	職員の意識改革と育成。また、部内での組織体制の構築につなげる	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	日本の行政でのデジタル化の現状と、行政DXを図る上で、まず「適切な時代認識」を持って、変革を起こし新たな地域の繁栄のゴールイメージを持ち、変革を実行するためには、デジタルの活用が必要と助言いただいた。また、「適切な時代認識」を持つためには、3S(情報のシャワー、情報のシェア、優れたサービス利用)の重要性やDXの推進の考え方について助言いただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	農業でのデータの利活用に向けて、まずは、職場環境、行政のDXに関する知識習得やモチベーションアップにつながった	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他 参加者のDXについての理解を深めることができた。

改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 アンケート結果のExcelを添付します。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	エビデンスに基づく政策立案	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

